

板金による試作からプレスによる量産まで一貫対応できることで、部品の製造数に応じて適切な加工法を選択できる。

その強みを支えているのは、技術的にチャレンジしていく社風である。他社で実現困難と判断する金属部品をコスト安に実現することを得意としている。「できないと言いたくない」という忠男氏のものづくりへの姿勢からの行動であった。同時に、金型の内製、工法研究の場所作りなどの環境整備も進め、さらにプレス技術を高めていった。

同社の工場には、使いこまれた設備が多くみられる。言葉を換えれば、最新の設備が少ないということである。しかし、五感をフルに駆使して、「手を速くする」意識で段取りや動きの時間短縮に努めている。事務所で打合せをしても、鉄

也氏の耳は工場の機械の動作音の異常を聞き分けている。いつもと違った音を聞くと、速やかに現場に出て行き、トラブルに対応している。そして高い品質を維持している。その要諦を鉄也氏は、「慣れが危険。当たり前のことをしっかりやればよい」と事も無げに語る。こういったことで製造効率を高めつつも、機械の償却費が転嫁されないことで、高いコストパフォーマンスを維持している。

そして2006年35歳となった鉄也氏が社長に就任した。先代の技術を探求する精神は、しっかり引き継がれている。2012年からは、へら絞り加工も取り込んだ。鉄也社長のアイデア力が支持されて、「こんなものがないか？」という相談が多く寄せられる。

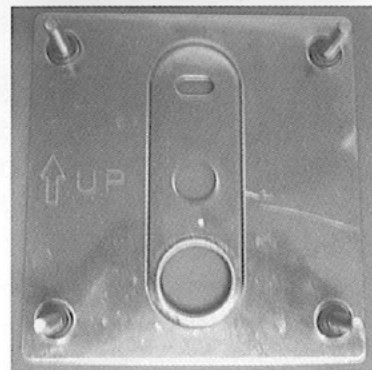
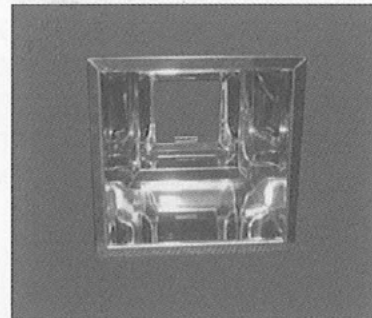
■ アイディアを具現化できる設備を得たことで自信をもって、外向きに情報発信

2019年に新たにレーザー加工機を導入した。従業員4名の同社には、負担は小さくなく、悩ましい投資であった。しかし、これからの樋口製作所の在り方について、役員で議論を重ね、覚悟を決めた。最近では、インターネットによる金属加工品の受発注プラットフォーム事業者などからの試作案件が増えている。こういった案件で求められる特殊形状の穴開けなどは、レーザー加工機で対応でき、仕事の幅が広がっている。鉄也氏は、「今まで作りたかったと思ってもできなかったことがあり、一種の心の苦痛であったが、レーザーが来てからそういったことがなくなり、逆にやりたいことがどんどん出てきた」とアイデアマンぶりを加速させている。

これからは、そういった会社の強みを外向きに発信していくことを強化していく。近年、ホームページなどを使った情報発信やテレビや新聞などのメディアに取り上げられたことで問い合わせも増え、流れがよくなっていることも感じる。

「願いを声に出すことで、一つ一つ実現していきたい」と社長を支えてCAD等を担当する金子常務は語る。1997年に亡くなった先代に姉弟で

前向きに取り組んでいる樋口製作所の現在の姿が届くように。



当社で製造したプレス加工部品

企 業 名	有限会社 樋口製作所
創 業 所 在 地	1970年(昭和45年)9月 川崎市宮前区西野川3-31-10
電 話	044-766-0711
F A X	044-766-3238
代 表 者	樋口 鉄也(ヒグチ テツヤ)
従 業 員	4名
事 業 内 容	プレス・へら絞り・板金加工業
U R L	https://www.higuchi-ss.co.jp/